

海の思い出

中西卓@岡山

我は海の子白波の騒ぐ磯辺の松原に煙たなびく苫屋こそ我が懐かしき住処なれ は明るくて楽しいが、
海行かば水漬く屍、山行かば・・・ は出征兵士を思い出すだけでも重苦しい。

昭和一元桁世代が歌った懐かしい歌であるが、今カラオケで歌ったらどれほどの人が耳を傾けるだろうか。

野口さんが茅ヶ崎の浜辺を散歩されるように海が近ければいいなと思う。海は野や山とは別の世界、潜れば浦島太郎の世界も体験できるだろうが。それを叶えぬままに歳とってしまった自分だが、以下順を追って海との関わりを辿ってみよう。海外旅行で海の思い出はヴァンクーヴァーしかないが別稿にさせていただく。

▽ 堺の浜：生まれ育った河内の西端から西へ9kmに大浜があった。(過去形は1950年代後半にこの一帯が埋め立てられて製鉄所などが並ぶ工業地帯になったから)元の大浜は漁港や海水浴場、水族館などで賑わい、南の高師浜まで白砂青松の海岸が続き“羽衣”の地名が相応しかつた。7年前に大阪国際ユースホステル(高石市羽衣公園丁)で泊まったが、YH 周辺の松と砂地が昔の面影を残していたのがせめてもの慰みだった。だが、日が暮れて傍らの浜寺運河の方へ歩くとコンビニートのフレアスタックから赤い炎が海風になびくのを見て、環境の様変わり改めて思った。

当時 プールがある学校は希で、多くの少年が夏休みに浜寺水練学校に通った。これを読んで 赤か黒の線を巻いた白帽を思い出す高津健児が居るかもしれない。

▽ 舞鶴：造船工場で勤務した舞鶴での18年。妻が五条海岸に並ぶリヤカーで買って来た とれとれの魚や貝が夕食の膳にあったのを思い出す。街育ちが尾頭つきを捌く術をいつの間におぼえたか。次男が魚好きで骨を残してきれいに平らげるのが常だった。冬、魚屋の店先に吊るされた一夜干しカレイが並ぶのは季節の風物だった。

護衛艦の海上公試は若狭湾を北上した日本海が舞台である。25ノットで地中海ブルーを掻きわけて進むと飛魚が歓迎するかのように海面に群れる、平和な海だった。おと年初冬に山陰線を下関から萩に向かったとき、車窓の日本海は鉛色で白い波頭が砕ける別の海だった。

(余分な話) たまたま見た7/9のNHKのど自慢が舞鶴市総合文化会館からだった。立派なホールに見映える舞台装置と照明、多彩な参加者(中には先斗町の芸妓さんや北海道出身の京大生、地元の海上自衛官も)、司会が女性アナでもあって長年続いた番組イメージを脱皮したように思った。更には、舞鶴湾を広く低空から俯瞰した映像に魅せられて梅雨のうっとうしさが幾らか晴れた気がした。

写真は西舞鶴上空から東方を遠望、右端奥に前稿の青葉山が見える(坂井厚氏提供)



▽ 礼文島：リタイアした半年後の夏、ユースホステル桃岩荘で2泊して北の海を眺め、若者の世界に浸った。島の北端スコトン岬は宗谷海峡を隔てて樺太があり、日本の北端でもある。そこから西岸沿いに4時間コースを8人のホステラーが、お姉さんをリーダーに歩き通した。(別の8時間コースは島の背を歩くアップダウンコースで山男が率いる)地の果てで旅人を迎える白く床しいレブンアツモリソウの群落が印象に残った。

YHの主棟は元の鯨番屋で大きな囲炉裏を囲んで歌や踊りがあり、吹き抜けの2階は天井桟敷、全館が一体となって盛りあがる。前夜はえらい所に迷い込んだと後悔したが、二晩めは違和感が無くなっていた。桃岩荘は世界中にない変わり種のYHで、フェリー埠頭で大きな旗を振り回す歓送迎パフォーマンスがすごい。YH利用旅の免疫をここで得たと思っている。礼文島は利尻と連れの観光の島であるが、海と山が一体となった自然が人を呼ぶのだろうか。冬の厳しさに耐える暮らしと崖に打ち寄せる荒波は想像するしかない。

▽ **岡山の海**：言うまでもなく瀬戸内海の一部だが、入り組んだ海岸に山が迫り、青と緑が縫う景色である。瀬戸大橋が通じて四国が近くなり、風景だけでなく通勤・通学などの社会事情も一変した。

・太田さんゆかりの玉野・**渋川海水浴場**は白砂青松で県内随一、孫連れで泳いだことがある。

・**牛窓**：リゾート風の洒落たホテルとヨットハーバーがあって“日本のエーゲ海”がうたい文句。オリーブ園の小高い山の背後・錦海塩田跡地に 235MW の太陽光発電パネルが並ぶ。(塩分濃度が高くて農地にできなかった)



・**備讃瀬戸**：8年前まで瀬戸大橋の近くに鷲羽山 YH があったが、ここで泊まると他所にない楽しみがあった。海面から 10m もない崖に建っていて、急潮の流れが手に取るよう、遠くを見れば対岸の坂出發電所の煙突や讃岐富士が見える。右手に瀬戸大橋が架かっていて、マリナーが行き交う。朝、食堂のガラス越しに鋼材を積んだ船が座礁して、満潮までタグボートを待つのが見たこともある。(この YH は倉敷市が所有管理してきたが 50 年経って老朽し、利用者減のために補修せずに閉鎖された)

・**瀬戸芸** (瀬戸内海国際芸術祭)：数年前から香川・岡山の芸術家グループが

始めたイベントでスケールが大きい。「瀬戸芸・・・」をネット検索してみ

ほしい。右は草間弥生さんの作品だが、10 年余りに新装なった銀座のデ

パートへ (銀座ライオンでの二八会の前に) 石原さんが案内してくれたとき、

吹き抜け空間を黄色に赤ドットのカボチャが空間を占めていたのを思い出す。

場所と大きさが違うだけである。



海を語るときに外すことができないのは、古来の名勝・須磨明石の海岸である。山陽本線の車窓からきらきら輝く海を大小の船が往来する眺める楽しみがあった。源平の武士たちはこの海をどんな思いで眺めたのだろうか。今は、明石大橋を上に見てほどなく須磨の海岸であるが、大橋が景観を圧倒するために情緒を感じられなくなった。

海は限りなく広くて深い。ZOOM で皆がそれぞれに海を語れば時間が足りなくなってしまうので、またの機会を待つことにしませんか

。

(おわり)

